

Beyond 5G 推進コンソーシアム 企画・戦略委員会
白書分科会(第11回)／ビジョン作業班(第16回)／技術作業班(第12回)
議事要旨

1. 日 時： 2022年2月22日(火) 15:00~18:00

2. 場 所： ウェブ会議 (WebEx)

3. 出席者：

中村主査 (NTT ドコモ)、

ビジョン作業班：小西リーダー (KDDI)、永田サブリーダー (NTT ドコモ)、

技術作業班：中村リーダー (富士通)、下西サブリーダー (NEC)、

WP5D 対応 Ad hoc：菅田主査 (KDDI)、武次副主査 (NEC)、

ほか、通信事業者、メーカ等、計 80 名

(事務局) 総務省移動通信課 新世代移動通信システム推進室

井出室長、杉山官

ARIB 加藤、相原、佐藤 (拓)、三宅、山下

4. 議事要旨

(1) 前回会合(第10回)の議事要旨について

「資料1 白書分科会第10回議事要旨」について事前照会が行われており特にコメントなく承認。

(2) 白書作成スケジュール

事務局から「資料2_1/2 白書作成スケジュール」について説明。質疑応答は以下のとおり。

中村主査：今後いろいろなイベントに参加して普及促進するという事を考えると冊子があつた方が良いと思うが、別途相談させて欲しい。

事務局：承知。今後の検討とする。

事務局よりデザイン案を紹介。発行元、version、日付等含め 幹部の方と相談しながら、適宜事務局の方で進めさせていただきたい旨を報告。

またタイトルについては、森川委員長のコメントもいただきながら、総務省、リーダー陣にて事務局含め決めさせていただく事とした。

(3) 白書リリースイベントについて

事務局から「資料3 白書リリースイベントについて」について説明。質疑応答は以下のとおり。

エリクソン本多氏：白書リリースイベントでは同時通訳があるか。

事務局：今回のリリースイベントは国内向けがメインと考えており同時通訳はない。

中村主査：今後、国際的なイベント等での白書の紹介機会は増えてくると考えており、そういう場では海外にも積極的に訴求できればと考えている。

(4) WP5D 対応 Ad hoc について

武次副主査から資料 4-1 WP 5D 対応 Ad hoc (FTT)、菅田主査から資料 4-2 WP 5D 対応 Ad hoc (vision) について説明。質疑応答は以下のとおり。

(FTT)

中村主査より、100GHz 以上の測定結果 (above 100GHz) を ITU-R SG3 へ入力する場合の具体的なコンタクト先について質問がなされ、武次副主査より、コンタクト先は NTT 山田様もしくは、武次副主査であると回答がなされた。

中村主査より、次回 6 月の WP 5D については、FTT についてはエディトリアルな修正のみとのことだが、above 100GHz に関する寄与文書は入力することが可能か質問がなされ、武次副主査より、可能であるとの回答がなされた。また、すでに白書分科会メンバーから日本語で文書をもっているため、6 月の WP 5D 会合へ入力することが可能であると説明がなされた。

中村主査より、above 100GHz の作業文書には伝搬測定結果以外に技術面の記載もあるかとの質問がなされ、武次副主査より、本文に多少技術的な記載があり、伝搬測定結果については、Annex に 7 つ記載があるとの説明がなされた。中村主査より、技術面についても白書の内容をレビューし、WP 5D へ寄与文書を入力してほしいと要望があげられた。

(VISION)

中村主査より、白書の 5.1 章、5.2 章の内容を 6 月の WP 5D 会合に寄与文書として入力するのが有効であると考えているが正しいかとの質問がなされ、菅田主査よりその通りであると回答がなされた。

中村主査が、提案方法の議論が必要だが、分科会としても積極的にサポートしてほしいと述べた。

中村主査より、6 月に行われる予定の Workshop の発表メンバーは VISION 勧告の作成に積極的にかかわっていない人が発表するとのことだが、白書分科会は発表可能であるかについて質問がなされた。

菅田主査より、Workshop で発表した内容が、VISION 勧告に反映されるかどうかかわからない、WP 5D に寄与文書として入力するのが基本ではないかと意見がなされた。

中村主査より、白書分科会としてアピールの観点で発表するか、各国の6Gの団体も発表するのではないかと質問がなされ、菅田主査より、おそらく各国の団体も発表すると思うが、Workshopの時間が限られるため、5/16までに取り纏め役の方へ発表内容を伝えるときに、有効な発表かと思わせることが重要ではないかと回答がなされた。

中村主査が、この機会を逸することなく対応するため、3月の分科会までに取り纏め役の方から情報収集をし、その内容によって4月末の白書分科会にて、対応方針を決めたいと述べた。

中村主査より、Workshopの会議形態について問われ、菅田主査より、対面とオンライン両方で行うとの回答がなされた。

(5) 技術作業班(第12回)について

中村リーダーから、資料05 技術作業班資料について説明。質疑応答は以下のとおり。

中村リーダー：今後の予定について、日本語原稿と英語原稿は共に3/4締め切りとするが、できれば早く仕上がったところは章単位で前倒しをお願いしたい。作業の進め方について、日本語と英語のどちらが先とか、一緒がいいとか、意見を聞きたい。

ドコモ須山氏：英語にKPIを書き加えると日本語も変更になるので、英語と日本語は同じ日程の方がよい。共に3/4締め切りがありがたい。6.2.6章の日本語は、まだ部品が上がってきていない部分もあり時間がかかっている。

中村リーダー：3/4締め切りに揃えようと思う。早くできたらサーバーに上げる。事務局としてはどうか。また、ファイルを保管するフォルダは後で案内いただけるか。

事務局：最後は3/4でよいが、できるだけ前倒しして欲しい。デザインの工程に時間が必要なのと、ボリュームが大きいので、その後の作業が大変なため。英文校正の2/28締め切りに日本語版も間に合わせていただけるとありがたい。

ファイルの保管については、今の技術作業班の作業フォルダで構わない。

中村リーダー：最後は3/4にするが、前倒しできるものは前倒しするよう皆さんに案内する。

KDDI 井尻氏：リリースイベントのパネリスト(高木)は引き受けたい。パネルディスカッションの際に資料は投影できるか。資料の形式は指定あるか。

下西サブリーダー：資料をスイッチングする時間はあると思うので、資料は事前に集めて私が投影する。詳しいことは事務局に相談して決める。

中村主査：パネリストは白書のとりまとめ役の立場であり、個社の立場ではないという認識でよいか。

中村リーダー：その通りで、白書のとりまとめ役としてお願いしたい。

SB 横田氏：弊社の登壇者については別途相談させて欲しい。依頼のメールを送付い

ただ形で問題ない。

中村主査：来年度の活動をどうするか、継続的に議論させて欲しい。要望等あれば意見を聞きたい。次回の白書分科会で議論させて欲しい。

エリクソン本多氏：6.2.6章の日本語版が未だできていない。リーダーから日本語版の作成の指示がなかった。

中村リーダー：1/28以降で英文原稿の日本語化をお願いしていたつもりだったが、指示がよくなかったかもしれない。現状の英文を基に日本語版の作成をお願いしたい。可能であれば2/28までをお願いしたい。私の方でも協力する。

ドコモ須山氏：本多さんの担当は6.2.6.1章で、このとりまとめはNEC丸田さんですが、ぎりぎりまで英文を直していたため日本語化にとりかかれていない理解。私の方で日本語化したバージョンがあるので、これを皆さんで直していただくのがよいと思う。スケジュールを後ろに延ばせない状況なので、これで対応して欲しい。

エリクソン本多氏：状況は理解した。まだ英文が安定していない部分もあるので、英文が先になる。

ドコモ須山氏：6.2.6章のとりまとめとして、私の方でもできる限りフォローする。

(6) ビジョン作業班(第16回)について

小西リーダーから「資料06 白書分科会ビジョン作業班」について説明
質疑応答は以下のとおり。

JAXA 小渡氏：モデレータからパネリストには直接連絡をいただけるか。

永田サブリーダー：そのようにいたします。

JAXA 資料投影しながらの発表で良いか。

永田サブリーダー：フォーマット統一するか、公開するか等、別途メール連絡とさせていただきます。

JAXA 小渡氏：謝辞的に個人名、企業名等掲載されるか。JAXAとしてオーソライズされたものではないため、企業名だと誤解を招く恐れあり。

小西リーダー：企業名団体名のみを想定しているが。

中村主査：誰が謝意を表すのかという事もあり、謝辞的ではなくファクトとしての記載にて調整する。

中村主査：他業界へのPRについて、どういうアプローチが良いか案を出して欲しい。

小西リーダー：承知。

(7) 今後のスケジュールについて

事務局より「資料7 今後のスケジュール」について説明。

特に質疑応答は無し。

次回会合は3月22日（火）15：00から開催予定。

以上